



安芸地域

～第1期産業振興計画（地域アクションプラン）の総括（案）～

1 各分野の取り組みの総括

農業

○ナス

まとまりのある産地づくりが進み、ナスの高収量農家の増加。

18/10a達成農家26戸（H22園年）→54戸（H23園年）土佐鷹(優良品種)の推進のため普及推進協議会を開催。

作付面積の拡大を図った。H23（園年）：24.5ha →H24（園年）：29.2ha

今後の方向性として、「学び教えあう場、研究会」の活性化や土佐鷹の普及拡大の継続が課題。

○ユズ

新植・改植の推進の取組により、JA土佐あき管内で2haとなった。JA土佐あき北川支所では、搾汁機能の高度化が行われ、販路開拓により飲料企業との取引が拡大。

今後の方向性として、更なる新植・改植の推進、青果玉出荷の増加、加工品の開発、果汁処理の高度化の検討が課題。

林業

○林業再生事業

事業者や担い手の育成が進み、素材生産量は増加しているが、長期の価格低迷が重くのしかかっている。

今後の方向性として、林業・木材産業を業として維持・再生することが課題。

○木質バイオマス

木質ペレットボイラーは、安芸市と芸西村で67基導入。木質ペレット製造工場が完成し製造を開始。

今後の方向性として、安芸市・芸西村での需要供給のバランスさせることが課題。

○土佐備長炭

新たな共同窯・研修窯設置し、生産量の拡大を図りながら、新規製炭者の確保と育成に着手。

今後の方向性として、安定供給体制の確立や、原木の安定確保が課題。

水産業

○キンメダイ

10.1億円の水揚げ。脂肪含有率の測定結果やアドバイザーを活用した市場調査結果を踏まえ、ターゲットエリアを関西圏にするなど、ブランド化の方向付けを行った。

今後の方向性として、更なる消費拡大と販売促進への取組が課題。

○低価格魚の付加価値づけ

加工業者と漁協の連携による販売事業（メサバ）を展開し、雇用の拡大（11名）にもつながっている。

今後の方向性として、シラスや低価格魚を加工業者との連携による加工や販売の促進が課題。

商 工 業

- 室戸海洋深層水
業界（深層水企業クラブ）が中心となった販路拡大と新分野への利用拡大に向けた研究開発に取り組んでいる。
今後の方向性として、供給地の拡大や、進められている共同研究の成果の実用化が課題。
- 地域資源を活用した加工品開発
田野町や芸西村で直販所を中心とした加工品の開発、施設の増改築による機能強化が図られている。
今後の方向性として、地域資源を活用した加工品の開発や販路の拡大に向けて、室戸ジオパークなど観光分野と連携した取組が課題。

観 光

- 「室戸ジオパーク」は世界認定された。「魚梁瀬森林鉄道遺産」ではJTBツアーの催行されるなどの取組みが実を結び始めている。
- 分野別の体験メニューなどを紹介する観光素材集「東方見聞録」を作成し、旅行エージェント等への営業に活用。
- 定期周遊バスとの連携、ジオパークパスを実施するなど、ごめん・なはり線を活用したコースメニューの提案を実施。
- 岩崎弥太郎や中岡慎太郎を輩出した地域として、地域での滞在がより魅力あるものになるよう、ボランティアガイドの育成、ウォーキングコースやレンタサイクルコースの設定、「中岡慎太郎館」のリニューアル、特産品の開発などを行った。
- 今後の方向性として、室戸ジオパークをはじめとする観光資源の更なる磨きあげ、体験型メニューの充実、地域の食の魅力づくりをしながら、圏域内で1泊以上滞在できる旅行商品づくりが課題。

2 主要な指標及び目標に対する実績値

項目	目標	実績
ナス（土佐鷹）の作付面積	H23：80ha	H23：29.2ha
ユズの生産量	H22～23平均 ：3,924t	H22～23平均 ：4,541t
林業素材生産量	H23：103,000m ³	H22：96,245m ³
間伐面積	H23：2,000ha	H23：1,907ha
主要水産物の単価	H23：362円	H23：288円
深層水関連商品売上額	H23：155億円	H23：136億円
圈内主要施設訪問者数 ※県調査	H23：130,000人	H23：97,738人
圈内宿泊者数 ※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ	H23：140,000人	H23：126,457人

3 安芸地域の主な成果と課題

①

○日本一を有する産地機能の維持・強化

<ナス>

No 1 まとまりのあるナスの産地づくり

《室戸市・安芸市・東洋町・奈半利町・田野町・安田町・北川村・芸西村》

事業主体：JA土佐あき・安芸農業振興センター

【取組の内容】

- ◆地域園芸戦力推進会議まとまりチーム会開催
- ◆部会の活性化（研究会（ナス部会）で活動計画を共有、学びと教える場の開催）
- ◆「土佐鷹」の推進（普及が進まない要因と対策を協議、土佐鷹勉強会等開催）
- ◆安芸集出荷場のまとまりづくり（重点巡回農家等リストアップ、「営農相談日」、「地区会」を開催）



〔主な成果〕

- ・研究会ナス部会への参加者増による活動の活性化

H21：126人 H22：174人 H23：201人

- ・「土佐鷹」作付面積の拡大

H21(園年)：15.3ha H22：23.5ha

H23：24.4ha H24：29.2ha

- ・系統出荷率

安芸市

H20：51% H21：52% H22：53%

JA土佐あき管内

H20：61% H21：62% H22：63%

- ・ナス出荷量の増加（安芸集出荷場）

H20(園年)：3,385 t H21：3,971 t

H22：3,841 t H23：4,378 t

〔課題と今後の方向性〕

- ・系統出荷率の向上
- ・土佐鷹の面積拡大

3 地域アクションプランの主な成果と課題 ②

○日本一を有する産地機能の維持・強化

<ユズ>

№2ユズを中心とした中山間地域の農業振興

《室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村》
事業主体・市町村、JA土佐あき、JA馬路村、
安芸農業振興センター

【取組の内容】

- ◆北川村：「ユズ振興ビジョン」の推進（北川村ユズ部会総会の開催）・集落営農の推進（役員会の開催）
- ◆馬路村（安田町）：「ゆずの村の活性化」（馬路村の連絡会の開催）
- ◆JA土佐あき：ゆずの青果出荷の安定と販路拡大（ユズ部検討会の開催、商談会参加）
- ◆産振補助金を活用
H21：総事業費369,480千円 補助金額49,735千円
※ゆず搾汁施設の機能アップ
H22：総事業費83,423千円 補助金額50,000千円
※ゆず茶製造ライン新設



【主な成果】

- ・新植、改植の推進への取組み、県選抜系統を活用した母樹園が設置された。
- ・集落営農組織及び農作業受委託組織を3組織育成できた。
- ・JA馬路村がゆず茶の加工施設を導入し、販売実績は徐々にではあるが増加していたが、H23は東日本大震災の影響もあり、前年度比96%程度の売上実績となった。
- ・ユズ茶販売
92,054千円(H22) 88,854千円(H23)

【課題と今後の方向性】

母樹園を活用した優良系統の普及、新たな仕組みづくり



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ③

○地域の1次産品等を活用した商品づくりと販路拡大

<土佐備長炭>

No 8 土佐備長炭生産・出荷・販売体制の強化事業

《室戸市・東洋町》

事業主体・高知県特用林産協会、室戸市木炭振興会、土佐備長炭生産組合

【取組の内容】

- ◆新たな共同窯・研修窯を設置
- ◆関係者協議（土佐備長炭生産組合、室戸市木炭振興会、2者による会、特用林産協会を交えた会）

◆産振補助金の活用

東洋町

H21：総事業費7,493千円 補助金額4,666千円
（共同利用窯設置2基、販路拡大・市場調査）

H22：総事業費11,252千円 補助金額7,374千円
（共同利用及び後継者育成窯の設置1基、製品保管庫設置1棟、先進地視察研修）

室戸市

H21：総事業費5,431千円 補助金額3,580千円
（後継者育成研修窯設置2基）

H22：総事業費3,308千円 補助金額2,204千円
（後継者育成研修窯設置1基（8t用））

【主な成果】

- ・室戸市木炭振興会、土佐備長炭生産組合と組織化→生産者に連帯感が生まれ生産性が向上した。

- ・共同窯や製品保管庫を設置→生産量の増
生産量 東洋町 493t(H22)→554t(H23)
室戸市 257t(H22)→292t(H23)
販売額 東洋町 123,250千円(H22)
→138,500千円(H23)
室戸市 64,250千円(H22)
→73,000千円(H23)

- ・安定的な研修生の受け入れ

研修生 東洋町 2人(H22) 4人(H23)
室戸市 5人(H22) 7人(H23)

【課題と今後の方向性】

研修生を受け入れ、後継者の育成に努めているが、研修後の就業時点での窯の確保が課題



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ④

○木質バイオマス活用の促進

<木質バイオマス>

№ 9 木質バイオマス活用事業

《安芸市・芸西村》

事業主体・芸西村、安芸市、森林組合、高知バイオマスファーム、(有)安岡重機

【取組の内容】

- ◆関係者協議（10回開催）
- ◆ペレット工場にかかる打合せ(4回)



【主な成果】

- ・木質ペレット製造工場の稼働
H22.11～ 安芸市の民間企業
- ・園芸用木質ペレットボイラーの設置
H21～H23 67基
- ・木質ペレット利用量：1,618t/年
- ・木質ペレット製造量：200t/年

【課題と今後の方向性】

木質ペレットの需要と供給のバランスが取れていない。



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑤

○水産物のブランド化への取組

＜水産物のブランド化＞
№ 13低価格な定置網漁獲物の販売戦略
《室戸市》
事業主体・(有)タカシン水産、高知県漁業

【取組の内容】

- ◆県外販路の開拓（県漁協による販売先の紹介、高知県大阪事務所と連携した営業活動）
- ◆高知県漁協ブランド商品の開発（サバ以外の魚種を用いた加工品）
- ◆水産加工施設（室戸工場）整備
- ◆産振補助金を活用（水産加工施設の整備）
H21：総事業費65,296千円 補助金額24,799千円

【主な成果】

- ・水産加工施設（室戸工場）操業開始
- ・加工生産技術が向上し安定した品質と生産量が確保され、取引先は順調に増加
- ・雇用の創出：**11名（H21～H23）**

【課題と今後の方向性】

- ・大口で安定的な取引先の確保
- ・更なる生産性の向上とスキルアップ
- ・新たな魚種を使った商品の開発

3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑥

○地域の1次産品を活用した商品づくりと販路拡大

<酒粕>

№19中芸地域食資源を活用した新商品開発及び地域ブランド化

《奈半利町・田野町・安田町・北川村・馬路村》
事業主体・民間事業者

【取組の内容】

- ◆酒粕スイーツ新商品の試験販売開始（蔵乃風大吟醸）、試作、試県販売を実施（2種類のパウンドケーキ）
- ◆酒粕ドレッシングを試作、試食会を実施
- ◆酒粕スイーツ販路拡大



【主な成果】

- ・酒粕スイーツ売上
H23上期月売上 300千円～400千円で推移
H23下期月売上 680千円～710千円で推移

【課題と今後の方向性】

- ・販売場所及び体制の確立
- ・製造コストの低減や製造コストの低減や製造工程の機械化の検討
- ・地域食材の活用による新商品づくり
- ・酒造業、農産物、加工業者との連携強化



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑦

○1.5次産業化の推進

< 田野駅屋 >
No 20道の駅「田野駅屋」の機能強化
《田野町》
事業主体・田野町、田野駅屋

【取組の内容】

- ◆ 田野駅屋の機能強化（レンタサイクルの配置、田野町魅力発見セミナー、まち歩きガイド研修の実施等）
- ◆ 商品陳列の改善（野菜コーナー）



【主な成果】

- ・ レンタサイクル利用実績
H23.7～H24.5 23台
- ・ 田野町魅力発見セミナー
H22～ 10回開催 のべ220名参加
- ・ 販売額の増加
232,386千円(H21)
225,643千円(H22)
232,280千円(H23)

【課題と今後の方向性】

- ・ 地場産品を活用した魅力ある特産品（加工品）の開発と販売体制の強化
- ・ 情報発信機能の更なる強化



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑧

○1.5次産業化の推進

〈かっぱ市〉
 №21地場産品直販所「かっぱ市」の
 機能強化
 《芸西村》
 事業主体・芸西村、芸西商工会、
 (有)かっぱ市

【取組の内容】

- ◆産振補助金を活用（施設の増改築）
 H22：総事業費1,155千円 補助額577千円
 H23：総事業費31,500千円 補助額20,456千円
- ◆関係者の協議の実施
- ◆農業創造セミナーへの参加



【主な成果】

- ・売り場面積を1.5倍に拡充、花卉部門、惣菜・鮮魚部門を確保でき売上増につがった。

売上額 41,961千円(H22.10～H23.3月)
 59,748千円(H23.10～H24.3月)
 ※42%アップ

【課題と今後の方向性】

- ・花卉類出展量の確保
- ・新商品の開発
- ・商品集荷システムの構築



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑨

○広域的に連携した観光の推進

<観光>

№22体験型観光の旅行商品化と販売・
受入体制の整備
《安芸地域全域》
事業主体・安芸広域市町村圏事務組合、
民間団体

【取組の内容】

- ◆産振補助金を活用（広報素材集、プロモーションビデオの作成、ランドオペレーター機能設置の検討等）
H21：総事業費7,617千円 補助金額3,808千円
- ◆ランドオペレーター年間計画の作成
- ◆中芸旅づくり塾の開催（5回）
- ◆各種協議会、研修会の実施（高知東海岸体験観光協議会、観光アドバイザー研修等）
- ◆魚梁瀬森林鉄道開通100周年記念事業実行委員会開催

【主な成果】

- ・高知東海岸観光周遊バス実績
H23年度実績 235名
- ・ランドオペレーターによる商品提案が実現
 - ・稲田塾東部コース(7月 参加27名)
 - ・田野町体感ウォーキング(1月 参加34名)
 - ・北川村モネの庭散策ウォーキング
(3月 参加34名)
- ・遊船クルーズオプションツアー
(3月 参加65名)

【課題と今後の方向性】

ランドオペレーター機能の更なる強化

3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑩

○広域的に連携した観光の推進

<ジオパーク>

№23地質資源を活かした交流人口の増加(世界ジオパーク認証に向けた取組)

《室戸市》

事業主体・室戸市、
室戸ジオパーク推進協議会

【取組の内容】

◆産振補助金を活用（観光客の受入れ体制の整備）

H21：総事業費29,823千円 補助金額14,841千円
(遊歩道整備、ガイド養成、広報素材・プロモーションビデオ作成、展示室・ディスプレイ設置、申請書作成委託)

H22：総事業費63,886千円 補助金額24,779千円
(案内板・遊歩道・駐車場の整備、ガイド養成、PR宣伝活動)

H23：総事業費28,221千円 補助金額17,395千円
(案内板・駐車場・遊歩道整備、ガイド養成、世界ジオパーク認証審査対応)



【主な成果】

- ・世界ジオパーク認定
H23年9月18日
- ・ガイド実績：563人(H21)
947人(H22)
5,087人(H23)
- ・雇用の創出：専門職員 4名
インフォメーションセンター 2名

【課題と今後の方向性】

- ・ガイド等の受入体制の強化
- ・更なる情報発信機能の強化



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑪

○広域的に連携した観光の推進

<魚梁瀬森林鉄道遺産> №29魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大

《奈半利町・田野町・安田町・北川村・馬路村》
事業主体・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会

【取組の内容】

- ◆魚梁瀬森林鉄道開通100周年記念事業実行委員会の発足
- ◆産振補助金を活用（安田町：H21～23 馬路村：H22 北川村：H23）
H21：総事業費8,500千円 補助金額5,600千円
（環境・受入体制の整備、情報の収集・整理、情報発信等）
H22：総事業費26,135千円 補助金額15,418千円
（遊歩道・駐車場整備、橋塗装、写真等の収集・整理・データ化等）
H23：総事業費9,604千円 補助金額5,624千円
（ガイド養成、広報資料作成、開通記念事業の実施、展望所・駐車場・遊歩道整備）

【主な成果】

- ・魚梁瀬森林鉄道開通100周年記念事業（H23～H24）
参加者：900名(H23)
- ・ツアー客数：**1,171名(H22)**
560名(H23)
- ・雇用：**2名**

【課題と今後の方向性】

- ・窓口の設置（H24.4月 中芸観光協議会設置）
- ・受入体制の強化
- ・更なる情報発信



3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑫

○広域的に連携した観光の推進

<モネの庭>

№34世界に2つの「モネの庭」誘客
強化事業

《北川村》

事業主体・北川村・(株)きたがわジャルダン

【取組の内容】

◆産振補助金の活用

H22：総事業費47,068千円 補助金額27,964千円
(四国内TVでの番組放送、多目的ホール整備)

H23：総事業費55,871千円 補助金額35,303千円
(小庭園等の整備、雑誌掲載・テレビ・ラジオでの宣伝、旅行
会社・マスコミ招待会、かんすい施設・ハウス温度管理設備
整備、園内ガイドシステム導入)



【主な成果】

・入園者数

60,040人(H21.2～H22.1)

53,369人(H22.2～H23.1)

59,101人(H23.2～H24.1)

【課題と今後の方向性】

H23年の入園者数は対前年比で伸びたものの、目標の65,000人からは大きく下回った。
東部地域の観光関連団体との地域交流会
開催や、北川村観光協会と連携しての観光
びらきの開催等新たな取組を行う。



4 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用実績等

【活用実績】

平成21年度	11件	174,166千円	(農業1件、林業3件、水産業1件、観光6件)
平成22年度	11件	140,166千円	(農業1件、林業3件、水産業1件、商工業1件、 観光5件)
平成23年度	7件	82,457千円	(農業1件、商工業1件、観光5件)
計	29件	396,789千円	(農業3件、林業6件、水産業2件、商工業2件、 観光16件)

【雇用の創出（H21～H23年度）】

	H23年度実績 (H21・22の雇用の継続分を含む)	うち産業振興推進 総合支援事業費補 助金関連
地域アクションプランに伴う雇用の増加	108人	41人

地域アクションプランにおけるふるさと雇用事業の活用人数 57人